# 破砕せず再生 コスト半減

緑の風を起こせ ◎7◎

関東版グリーン・ニューディール

## 常北運輸

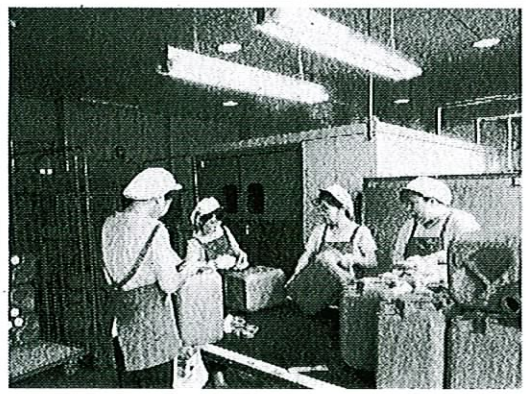
### プラスチック産業容器の洗浄

### 本業「運送」とシナジー

「容器に運送はつきもの」―。常北運輸が本業の運送業とのシナジーを狙って始めたのが、プラスチック産業容器の洗浄事業だ。電子基板の洗浄液などの薬剤やメッキ液などを運ぶための容器は、これまで使用後に破砕し、再生利用するケースが多かった。しかし、まだ使えるのにもったいない。そこで和田祐司社長が目を付けたのが、洗浄事業の始まりだった。

しかし環境負荷の低減を訴えるだけではなかなか受け入れられない。そこで同社は、洗浄する場合と破砕して新たな容器を購入する場合とで1個あたりのコストを試算した。その結果、新品の容器を毎回購入すると廃棄料金を含めて800円かかる。一方で洗浄すれば約半分のコストで済むということを前面に打ち出して経済性も訴えた。

容器の洗浄は、まず受け入れ検査をし、残液処理、レッテルを除去してから、内部と外部を洗浄する。洗浄後は帯電防止剤を噴霧してから乾燥させ、最終検査の上、発送する。手作業も多く、作業に従事する女性らには「楽しくやってもらっている」（和田社長）という。また、容器だけでなく、機械部品などを運搬する樹脂コンテナの洗浄も始めた。有害物質を含んだ洗浄が難しい容器以外は「何でも洗いたい」（同）という方針だ。



▲……容器の洗浄作業は手作業が多い

今後の事業展開としては容器への薬剤の充てん事業を月内にも始める予定。これまでは洗浄後の空の容器を受託先にそのまま返却していたが、今後は薬剤の充てんまで行うことで、売上高の拡大を図る。すでに薬剤を混ぜ合わせる混練機を中郷洗浄工場（茨城県北茨城市）に導入している。まず、月5㌧程度の薬剤の充てんから始め、1年後には月20㌧を目指す。

洗浄した後の空の容器を運ぶのは「空気を運ぶようなもの」（和田社長）と非効率であるとの考えを以前から持っており、容器に薬剤を充てんする事業を提案していた。薬剤の調合比率なども受託先から引き継いで事業を始めることにしている。

当面は薬剤を充てんした後の容器は受託先に返却するが、将来は「受託先ではなく、実際に使用するユーザーに直送できるようになれば輸送コストも低減できる」（和田社長）としている。環境に優しいことが、低コストにつながることを実践する。

（火曜日に掲載）

【企業メモ】▽代表者＝和田祐司社長▽住所＝茨城県北茨城市磯原町豊田2の12▽電話＝0293・42・0664▽事業内容＝倉庫管理・人材サービス・運送など